

急激な医薬品市場の発展を遂げる途上国の地域薬局における抗菌剤の売買と使用
○中島 理恵¹, 高野 健人², 中村 桂子¹ (¹東京医歯大院国際保健医療協力学分野, ²東京医歯大院健康推進医学)

【目的】抗菌剤は耐性菌のまん延を防ぐ意味で販売や使用に関して十分な注意が必要な医薬品であるが、医薬品の規制が不十分な国において誤用・乱用される傾向があると言われている。本研究では、モンゴルの抗菌剤の売買に関する情報を地域薬局における抗菌剤の販売・購買を調査して明らかにした。

【方法】モンゴル国、ウランバートル市の地域薬局 250 薬局において薬局の販売職員を対象とする調査、顧客を対象とする調査を実施した。薬局職員調査は各薬局 1 名ずつに面接調査を実施し 250 名より回答を得た。顧客調査は各薬局 1~5 名の顧客を対象とし合計 619 名の回答を得た。薬局職員調査では当該薬局において販売している抗菌剤の名称、それらの抗菌剤を 1 日平均何名の顧客が購入するかを調査した。顧客調査では顧客の年齢、性別、購入した抗菌剤の名称、抗菌剤購入時の処方箋の有無、抗菌剤を使用する顧客の疾患を調査した。

【結果】薬局調査の結果より顧客 50 人当たり平均 5 人以上に販売される抗菌剤はアモキシシリン(人±SD; 6.2 ± 5.5)、アンピシリン(5.9 ± 5.3)、メトロニダゾール(5.8 ± 4.9)、スルファメトキサゾール・トリメトプリム(5.4 ± 4.8)であった。顧客の内、297 人 (48.0%) が抗菌剤を購入し、その内 125 人 (42.1%) が、抗菌剤を購入する際処方箋を持参していた。抗菌剤使用予定者の疾患の割合は急性呼吸器疾患 (54.8%)、泌尿生殖器疾患 (15.5%)、消化器疾患 (10.7%) であった。

【考察】抗菌剤は本来ならば医薬品の規制が整った国々の薬局のように、処方箋に基づく専門家の慎重な判断によってのみ投薬されるべきものであるが、モンゴルの薬局では、主によく見られる疾患の治療を目的に、薬局来局者の 2 人に 1 人に購入され、その内の半数が処方箋を持参していなかった。